

Phagri

2019年

4月

NO.206

ワカバ堂薬局

JR 守山駅東ログランドメゾン守山1F

TEL077-583-8474

<http://www.phagri.com/>

◆◆おじじネバネバ、おばばクネクネでいこうと思います！◆◆

お彼岸の頃、お客さんに「比良八荒て済みました？」で無粋なことをきいたら、「これからやん」とやりわりと教えていただきました。なんでも、3月末、湖西一帯で行われる「比良八講」が語源で、春本番を迎える前、3月末から4月にかけて吹く強風を総称して比良八荒と呼ぶようになったそうです。



こうした寒気の吹きおろしによる症状の代表格が**筋骨の痛み・しびれ・こわばり**です。

超高齢化と情報化社会になって、医療機関や鍼灸、整体などにいくと緩和しても、治りきらない「筋骨の弱り」が増えました。それでロコモティブシンドロームとかサルコペニアとかフレイルとか言われ、「歩きなさい」といわれます。

原因は、筋骨の弱りのほか、栄養を摂っても利用しきれない内臓機能と代謝機能の衰えにあります。漢方でこうした弱りや衰えまでカバーするものは何かというと、筆頭は**独活寄生湯(どっかつきせいとう)**になります。独活寄生湯は痛み止め(去風薬)と補肝腎(筋骨補強薬)、補気(肉を養う生薬)の薬草群からなっています。今回は、本法の主な構成生薬のうち、この時期に縁の深いものを取り上げようと思います。

1) トチュウ・・・(ネバネバ)



かつて健食ブームでトチュウの葉がクローズアップされたことがありました。本来漢方医学では、より効果の高い樹皮しか使わないので、やがてブームは廃れました。その時注目されたのがグッタペルカというネバネバ成分です。古来、筋骨補強と、流産予防に効果があり、中高年の腰痛、月経期の腰痛に使われてきました。血液循環改善作用もあります。春先に開花し、たくさんの花粉をまき散らします。

2) ソウキセイ(桑寄生、ヤドリギの茎葉)・・・(クネクネ)

ヤドリギは落葉広葉樹に寄生する常緑植物で、冬場に見つけやすくなりますが、多くは老木の高いところにあるために採れません。ところが春の強風で宿主の枝同士がぶつかるときに、根元から離れて落下します。手に取ってみるとゴムのようにクネクネします。足腰の弱り・痛み・シビレ・こわばりのほか、トチュウ同様、流産予防にも使います。ヨーロッパの自然療法でも血液循環改善薬として使われてきました。



3) ウド(唐独活)



桜の開花時は食用のウドが出回ります。独特の香りが珍重されていますが、ほとんどは遮光して栽培されたもの。漢方では、このウドも使いますが、本法で使用されているのは、唐独活と言って、シシウドの仲間。

比良八荒の頃の腰背部やお尻、膝のだる痛さや足のしびれなどに適しており、本法の処方名からも、主薬であることがわかります。

岩崎宏美ちゃんが「思秋期」の時、ワカバ君は「思秋奴」になってあげようと思います。

4) サイシン(細辛)

ウスバサイシンのことで末端の痛み・シビレに有効です。春先に開花し、ギフチョウが産卵に飛来しますが、他の雑草の下に隠れて見えにくいので、下草刈りの時に刈払機でうっかり刈ってしまいます。すると数年間花をつけないと言われていました。下草刈りにはサイシンの注意が必要なのです。



(虫の一分)